様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 22 日現在

機関番号：36101
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2007 年～2011 年
課題番号：20791809
研究課題名（和文）　職場における心的外傷を経験した看護師に対する介入法の確立に関する研究
研究課題名（英文）　Study on establishment of the intervention method for the nurse who experienced the trauma in the workplace
研究代表者
新山　悦子（NIIYAMA ETSUKO）　四国大学
研究者番号：80389030

研究成果の概要（和文）：
職場において暴言・暴力を受けた一般病棟に勤務する女性新人看護職のメンタルヘルスの向上を目的に，体験後の認知とコーピング方略に焦点化したグループアプローチを行い，その有効性の検討を試みた．認知に焦点化したグループアプローチを行った結果，自己・世間に対する否定的認知，出来事に対する自責の念の得点が有意に低減した．コーピング方略に焦点化したグループアプローチを行なった結果，「気分転換」「トーキング」の得点が高まり，本グループアプローチの有効性が確認できた．
研究成果の概要（英文）：
Group therapy focused on the post-experience cognitions of new female nurses working in general hospital wards who experienced violent language or violent acts in the workplace and its effectiveness was examined through a randomized controlled trial. In this study, interventions are conducted focusing on coping strategies and cognitions after experiencing violent language or violent acts with the aim of improving the mental health of new female nurses who have experienced verbal and physical aggression in the workplace. Between the intervention group and the control group, the effectiveness of this group therapy was confirmed for the following coping strategies: “Talking,” and “Change of pace.” Between the intervention group and the control group, the effectiveness of this group therapy was confirmed for the following post-traumatic cognitions: “negative cognitions about oneself,” “blaming oneself for the trauma,” and “negative cognitions about the world.” As a result, significant differences were observed among the two groups and the effectiveness of the group therapy could be verified.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009 年度	500,000	150,000	650,000
2010 年度	600,000	180,000	780,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
総　計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：医歯薬学
科研費の分科・細目：看護学、基礎看護学
キーワード：暴言・暴力,グループアプローチ,外傷後認知,コーピング,女性新人看護職

１．研究開始当初の背景

わが国では，患者からの暴言，暴力を受けた精神科病棟の看護者の心理的側面に焦点化した研究が進んでいるが，一般病棟の看護師に関する報告は少ない．

筆者は，看護師の職場における心的外傷後の認知を調査し，維持群と回復群との比較検討を行った結果，持続群は否定的な認知や自責の念の得点が高く，外傷反応の推移に影響していることが示された．また筆者らは，看護師の職場における心的外傷に対するコーピング方略尺度（『積極的行動』『ポジティブ思考』『認知的回避』『思い任せ』『トーキング』『気分転換』の計６因子)を作成した．維持群と回復群におけるコーピング尺度の各因子の合計得点の平均の差の検定を行なった結果,『気分転換』のみが回復群のほうが維持群よりも得点が有意に高かった．

先行研究を分析した結果，女性新人看護職が職場において暴言・暴力を体験しており，そのことが原因で離職につながることが明らかになっており，精神科病棟・外来に勤務する看護者に対するグループアプローチの有効性が報告されている．

以上のことを看護師に心理教育を行い，認知，コーピングを改善すれば外傷反応が低減することが期待でき，看護師の離職や休職の減少，患者のケアの質の向上が期待できると考えられた．

２．研究の目的

本研究の目的は，女性新人看護職の職場において暴言や暴力を体験した者を対象にグループアプローチを行い，その効果を明らかにすることであった．

３．研究の方法

対象は，病棟に勤務する女性新人看護師のうち，職場における暴言・暴力による外傷体験がある者のうち、本研究に同意が得られる者であった．対象者は各施設に介入群と対照群に無作為割付けした後，グループアプローチを行った．司会は，病院における看護師の臨床経験が 11 年である本研究者が行い，精神科医のスーパーバイズを受けながら行った．評価は，先行研究に基づいて（Spiegel et al.，1981)，介入群，対照群ともにベースライン（介入開始前）と介入終了後，介入終了後３ヶ月の３時点で行った．介入プログラムの内容は,グループを用いた短期(1回90分，3回）の心理的介入とし，職場における暴言・暴力に対する認知あるいはコーピング，その後の対応についてどう考えるか等を主なテーマとする教育的介入を中心とした内容であった．調査内容は，基本的属性，外傷体験の内容，外傷反応（IES-R，飛鳥井他，2002)，The Japanese Version of Post-Traumatic Cognitive Inventory（JPTCI，長江他，2004)，あるいはCoping scale for trauma in the workplace（新山，2009）であり，質・量的に分析して女性新人看護師に対するグループアプローチの効果を明らかにした．介入実施時期は，平成 20～23 年 6～8 月，介入実験地域は四国，中国地方の病院であった．グループアプローチは，患者・家族、医療従事者からの暴言・暴力を体験している一般病棟に勤務する女性新人看護職を対象に、1 グループ 3～8 名で 1 回 90 分のグループアプローチを 3 週間に渡ってグループアプローチを実施した。対照群は，介入群と同時期に質問紙調査のみ実施した．

４．研究成果

先述したように，わが国では，患者からの暴言・暴力を受けた精神科病棟の看護者の心理的側面に焦点を当てた研究は進んでいるものの，患者・家族や医療従事者から暴言・暴力を受けた一般病棟に勤務する看護職に関する報告はほとんど見当たらない．また暴言・暴力を体験した看護者に対する介入研究は，少林寺拳法を取り入れた防御法，護身術による暴力防御，包括的暴力防止プログラム，性暴力防止プログラム等，暴力の予防に関するものが多く，効果・評価も曖昧である．加えて，一般病棟において同僚や上司，患者・家族からの暴言・暴力を受けた女性新人看護職に対する介入法に関する報告はなく，一般病棟の暴言・暴力対策や認識は皆無に等しい状態であるが，暴力が短期的，長期的にかかわらず,PTSD のような忘れがたい痕跡を残すことが示されている．

筆者らが行なった先行研究の結果から，コーピング方略や外傷後認知を改善すれば外傷反応が低減することが期待できることを明らかにした．有効な介入法が確立されれば,看護職の離職や休職が減少し，患者のケアの質の向上が期待できる．そこで本研究では女性新人看護職を対象に，コーピングと認知に焦点化した教育的介入を中心としたグループアプローチを実施した結果，本グループアプローチの有効性を確認できた．

本研究の意義は，まず精神科病棟以外の一般病棟に勤務する看護職における暴言・暴力

体験を明らかにした点にある．一般病棟における看護職の暴言・暴力体験の実態が明らかにしたため，病院に勤務する看護職に対する暴言・暴力への関心が高まるものと思われる．次いで，病院に勤務する看護職における暴言・暴力体験による心理的負担を明らかにできた点にある．また，外傷反応の低減に寄与する認知・コーピング方略と，それに基づいた介入法の有効性が示された．以上のことから本研究は，暴言・暴力体験のある看護職のメンタルヘルスの維持・向上に役立ち，ひいては患者への質の高いケアが可能になることが期待できる意義ある研究であったと思われる．

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

① 新山悦子，女性新人看護職の暴言・暴力体験による外傷反応の低減に認知が及ぼす影響，看護・保健科学研究誌，査読有，14 号，2008，p.49-58.

② 新山悦子，岡村仁，職場における心的外傷の想起が看護師の精神的健康に及ぼす影響，看護・保健科学研究誌，査読有，15 号，2011，p.21-30.

③ 岡村仁，新山悦子，看護師の職場における心的外傷の収集と分類，看護・保健科学研究誌，査読有，15 号，2011，p.48-54.

④ 新山悦子，岡村仁，看護職の職場における心的外傷の実態および外傷反応と共感性との関連，看護・保健科学研究誌，査読有，15 号，2011，p.55-64.

⑤ 新山悦子，病院に勤務する看護師と訪問看護師の職場における心的外傷の比較，インターナショナル Nursing Care research，査読有，10 巻 3 号，2011，p.35-44.

⑥ 新山悦子，梶原京子，訪問看護師の職場における心的外傷体験，福山平成大学福祉健康科学研究，査読有，第 6 巻，2011，p.43-49.

⑦ Etsuko Niiyama, Hitoshi Okamura, Effects of Group Therapy Focused on the Coping Strategies of New Female Nurses who Experienced Violent Languaguage and Violent Acts From Patients，インターナショナル Nursing Care research，査読有，Vol.11，No.1，2012，印刷中.

⑧ Etsuko Niiyama, Hitoshi Okamura, Effects of Group Therapy Focused on the Cognitions of New Female Nurses who Experienced Violent Languageand Violent Acts in the Workplace，インターナショナル Nursing Care research，査読有，Vol.11，No.1，2012，印刷中.

⑨ Etsuko Niiyama, Hitoshi Okamura, Effects of Group Therapy Focused on the Cognitions of New Female Nurses who Experienced Violent Languageand Violent Acts from Patients，インターナショナル Nursing Care research，査読有，Vol.11，No.2，2012，印刷中.

⑩ Etsuko Niiyama, Hitoshi Okamura, Effects of Group Therapy Focused on the Cognitions of New Female Nurses who Experienced Violent Languageand Violent Acts from Patients，インターナショナル Nursing Care research，査読有，Vol.11，No.2，2012，印刷中.

〔学会発表〕（計 3 件）

①新山悦子，岡村仁，職場において暴言・暴力を体験した女性新人看護職に対するグループアプローチの有効性に関する研究，第 29 回日本看護科学学会学術集会講演集，査読有，2009，p.509.

② 新山悦子，職場における看護者の心的外傷と外傷反応に関する研究，広島大学保健学ジャーナル 8 巻 1-2，査読有，2009，p.41-42.

③ 新山悦子，岡村仁，Effect of Cognitive Behavior on Reducing Trauma from Verbal Abuse and Violence in Newly Hired Women Nurses，査読有，Poster session1，Area A，P-01-003，2011.

〔図書〕（計　件）

〔その他〕

現在，研究結果を公開するためにホームページを作成中である．また，本研究結果を国際学会に投稿し，抄録が accept されているため，現在のところ 3 本を発表する予定である．さらに，職場におけるケアの質の向上を図るために本研究結果を看護職のみならず，県の保健医療政策課をはじめ多くの国民に理解をしてもらうために特定非営利団体「ナースサポート徳島」を設立した．今年度は，本研究結果を講演にて公開し，さらに対象を拡げて多くの看護職の心理的サポートを行うために，現在，理事会にて計画段階である．

６．研究組織

(1)研究代表者

新山　悦子　　（四国大学看護学部）

研究者番号：80389030

(2)研究協力者
岡村　仁（広島大学大学院）
研究者番号：40311419